

【書く・なぞる】俳句 杉田久女 一

春寒し 手まり匂へる 座敷かな

花衣 ぬぐやまつわる 紐いろいろ

みづうみの 氷は解けて なほ寒し

月光に 魚跳ねかはす 石の上

紅梅や 障子の穴の 遠い山

【書く・なぞる】俳句 杉田久女 二

桜散る 松のこずゑは 揺れざりき

かりがねの 影も寒さよ 渋紙戸

炎天や 花なき藤の 垣ばかり

草の花 子規と墓辺の 枯すすき

葛の花 踏みしだかれて 色あたらし

【書く・なぞる】俳句 杉田久女 三

向日葵は 昼まぶしさに 燃えにけり

コスモスや 揺れてすぐ影 うつりけり

山桜 あしたの雨に 散りはてぬ

花冷えの 竹を吹き出す 風あらし

水仙や 曇れる雪の ただ中に

【書く・なぞる】俳句 杉田久女 四

夏川を 上りゆく子や 日傘さし

旅人の 傘さし行けり 野分あと

露の世や 廃園の木の 影ばかり

初雪の 紙の如くに 降りにけり

涼しさや 紙をはぐ音 人の声